

中国重慶市 東南アジアへの柑橘類の輸出を拡大

[FreshPlaza](#) 2025年1月3日

重慶市は農業の成長を背景に東南アジアへの柑橘類の輸出を拡大

東南アジア諸国からのバイヤー達は最近、重慶市秀山県獅地鎮(町)を訪れ、柑橘類の発注を行った。これは、重慶の農産物に対する国際的な需要を反映している。獅地町の柑橘類は海外で人気急上昇しており、2023年にはASEAN諸国への輸出が初めて標準的なコンテナで100個となった。この成果には、独自ブランドの原産地証明の取得と直接出荷が含まれる。

2024年については同町の柑橘類輸出は標準コンテナで200個に達すると予想される。取引額は1,200万元(164万ドル)と見込まれ、輸出額の大幅な増加を目指している。地方政府は、同町の柑橘類の世界的な拡大を強調し、この成長を支援するために柑橘類輸出センターを設立した。

柑橘類に加えて、重慶の輸出農産物のひとつにキクの花があり、シンガポール市場で顕著な存在感を示している。重慶市内の様々な地域から出荷される花は、その品質で注目を集め、地元の農家の生活を向上させる農村活性化の取り組みに貢献している。

重慶市の輸出戦略は、新国際陸海貿易回廊(国際陸海貿易新通道)の恩恵を受けて、地域の輸出入能力を強化している。この戦略的な開発により、この地域の輸出入額は2年で4倍に増加した。キクや涪陵区のザーサイなど、重慶市の農産物輸出の成功は、国際市場での同市の影響力の高まりを例示しており、農産物の輸出は前年比で大幅に増加した。

重慶市が農産物の輸出を拡大し続ける中、外に開いた経済を支えるため、引き続き物流インフラ、市場チャネル、企業サービスの改善に焦点が当てられている。その独特な農産物を振興する同市の取り組みは、世界の舞台での同市の評価に貢献しており、地域の経済発展と農村の活性化に良い影響を与えている。

出典: [Chong qing\(重慶\)](#)

中国 ブルーベリー品種の知的財産保護の取り組みを開始

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月6日

中国では、権利侵害事件がより顕著になり、同国の育種と技術の進歩を損なっているため、ブルーベリー品種の知的財産保護の取り組みを開始した。

中国の食品輸出入商工会、在来農畜産物副産物協会(CFNA)、及び中国ブルーベリー委員会のメンバーによって発信されたプレスリリースは、中国のブルーベリー産業が「急速に拡大/増大する栽培面積、収量、貿易量」によって驚異的に進歩しており、品種保護が業界の健全で持続可能な発展の基礎であるとしている。

この取り組みは、すべての業界関係者に対し、中国のブルーベリー品種を保護、優先、振興し、他の公的機関と協力して侵害行為を調査し、取り締まるよう呼びかけている。

署名者には、ドリスコル社のグローバル担当副会長兼アジア担当副社長・総括マネージャーであるチョン・ジェムン氏、アグロビジョンチャイナ社の商務ディレクターであるラルフ・ジョウ(周)氏、カンポソル社中国部門の総括マネージャーであるルイス・バーナンテ氏、ユナイテッドエクスポートチャイナ社の事業マネージャーであるショーン・リー(李)氏、その他の人々が名を連ねている。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)